



「地球温暖化時代の異常気象
(気象ブックス033)」

吉野正敏 著

成山堂書店, 2010年10月

208頁, 1800円 (本体価格)

ISBN 978-4-425-55321-1

「天気」2008年9月号の本だな欄に、同じ著者の「世界の風・日本の風」の書評を掲載した。その中で「現在、インターネットのバイオウェザー連続エッセイでは新たなシリーズ「異常気象」が連載されている。いずれこのシリーズも刊行されることを期待したい。」と書いたが、今回上梓された本書がこれである。

著者はこれまで長年にわたって気候の研究を世界各地で行ってこられており、その中で広範囲に収集された資料、該博な知識、多くの著作による啓発活動等の経験が本書にも遺憾なく示されている。本書も、これまでの著作と同様幅広い分野での、異常気象さらには地球温暖化との関連等の話題を取り扱っており、一読して色々とし新しい知識を得ることが出来た。

著者は「はじめに」において、最近のマスメディアにおける異常気象の扱いの特徴を以下のように分析している。

- ・近年は異常気象に関する報道は詳細で科学的にも高度
- ・極値のみならず連続日数や地域的な広がりも情報の対象

著者は、地球温暖化に関する影響評価・対策には、単に極値についてのみ注目するのではなく、連続日数や地域的な広がりにも注目する視点が重要であるとしている。また、本書は、これまでに語られてきている異常気象について、地球温暖化という視点から分析を行ったものであるとも述べている。

本書の目次を示すと、

- 第1章 序章
 - 第2章 熱波・異常高温・ヒートアイランド
 - 第3章 台風・サイクロン
 - 第4章 雨と洪水
 - 第5章 寒波・冬の低気圧・冬の雷
 - 第6章 山の雪・平野の雪
 - 第7章 干ばつ・冷夏・霧
 - 第8章 植物季節
 - 第9章 突風・竜巻・木枯らし
- となっている。

目次からもわかるように、広範囲の気象現象に関する異常気象について説明するとともに、特に最近の日本ならびに世界の異常気象について、詳細に述べ、地球温暖化との関連等について、豊富な図表を用いて、詳細に説明を行っている。著者は「あとがき」において、「ヨーロッパで発生した異常気象が、……場合によってはその日のうちに、また、現象によっては2～3年後までも日本の経済に影響するのである。このような視点が重要なので、日本の異常気象ばかりでなく、世界の異常気象の特徴をより深く理解することを考えた。」と述べている。まさにグローバル化時代の異常気象の特徴である。日本のみならず、世界の異常気象の現状を把握するのに、最適の書物である。

本書では、気温・降水・台風等の通常よく述べられる気象現象のみならず、例えば、神話と異常気象、雪形と異常気象、植物季節と異常気象等についても、興味深い分析がなされており、気候学研究的のオールラウンドプレイヤーである著者の面目躍如といったところである。

座右に置いて、異常気象が話題になったり、メディアに登場したときに、報道等と併せて読むと、異常気象の実態がより一層深く理解できるものと思われる。

是非、一読されることをお勧めする。

((財) 日本気象協会 藤谷徳之助)